

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識をもって自分の思いが伝わるように話したり、話し手の思いを汲み取りながら聴いたりすることに課題がある。 授業の中で、意味が分からない言葉や慣用句があると、すぐに国語辞典を用いて調べる児童が増え、語彙の広がりにつながった。 物語文の場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を読み取ることが苦手な児童が見られる。 構成や順序を考えて、伝えたいことが伝わるように工夫して文章を書くことができる児童が増えた。 新出漢字の習得に個人差があり、既習の漢字を使って文章を書くことが定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に目的意識やポイントを確認してから活動し、事後に「話す・聴く」両観点から振り返りを行うことで、自分の良さや課題をつかめるようにする。 引き続き、国語辞典をすぐに取り出せる環境に配置しておく。何度も国語辞典を引くことで、早く正確に引けるように習慣付ける。 場面の移り変わりや展開に応じた行動の違いに印や線を引き、文に沿って読むことを繰り返す。また、気持ちを読み取る手掛かりとなる会話文、情景を表す文、行動文などに着目させる。 引き続き、様々な形態の文章に触れたり、組み立てメモを基に書く活動を取り入れたりして、書くことを習慣化していく。書いたものを友達と読み合い、良い所を見付ける。 けやきタイム等を活用して、間違えやすい漢字を抽出し、小テストを繰り返す。 自主学习ノートなどで苦手な漢字を家庭でも復習するよう習慣付ける。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 初めての社会科の学習に、意欲的に取り組むことができた児童が多い。自分が住む文京区に興味をもち、地形や交通など経験と結び付けながら、調べ学習を進めることができた。 地図や写真などの資料から情報を適切に読み取り、考える力が必要である。 情報の整理の仕方や、調べたことを絵地図・新聞などに表現する力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを生活の中に生かす場面を意図的に設け、地域に更に興味をもてるようにする。児童の自主学习ノートや社会のノートを紹介し、調べ方や調べたことを共有する。 資料を読む活動を多く取り入れ、資料の見方を指導する。また、ICT機器を活用して、効果的に捉えさせる。 児童が興味をもって学習に取り組めるような資料の精選、提示の工夫を考える。 ペアや少人数で分かったことや考えたことを伝え合う時間を設ける。整理されたノートや新聞などをポイントと併せて紹介し、参考にするよう促す。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算の仕方自体は理解しているが計算ミスをしてしまう児童が多い。 理解度に個人差が大きい。 自分の考えを分かりやすくノートにまとめる力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 途中式や計算の過程を書いて問題を解くことが習慣化できるように声掛けをする。 児童同士で教え合いの時間を設けるなど、理解度に合った学習活動を行えるように指導を工夫する。 図や数直線を用いて説明を書くよう促す。また、友達と考えを発表し合ったり、ノートを見せ合ったりする機会 	

		を多く設け、考えや説明の仕方を学び合えるようにする。	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に意欲的に取り組んでいる。 ・身近な出来事と結び付けて考えることができている。 ・観察対象を細かく観察して表現することに苦手意識があり、記録を書く活動に時間がかかる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題把握→予想→実験・観察→結果→考察を基本とし、児童が見通しをもって活動したり、実験の内容について考えたりできるようにする。 ・児童にとって身近な事象を提示したり、実体験を話し合わせたりする活動を継続し、日常生活に基づいた学習問題を設定できるようにする。 ・観察の視点を具体的に提示し、児童が記録を書きやすいようワークシートやノートの書き方の指導を工夫する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーへの興味・関心をもって学習に取り組む、音色や奏法に親しんでいる。正しい奏法の定着の様子を個別に把握しながら指導を続ける必要がある。 ・明るい声で楽しく歌うことができる。旋律の音の動きを感じ取って歌う学習を増やし、特徴の理解に繋げる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短い言葉での指示を続け、準備をルーティーンにして習慣付くようにし、ちょうどよい息遣いや姿勢の保持で吹けるようにする。舌の動きだけを確認する時間を設けるなど、ポイントを明確にした学習で奏法の定着を図り続ける。 ・安心して歌える学習環境を整え続け、よい姿勢でのびのびと声を出すように促す。旋律を歌う時間と聴き取る時間を設け、旋律の動きを感じ取れるようにする。 	
図画 工作	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞で自分の作品や友達の良い作品の見付けることが難しい児童がいる。 ・作品の完成を急ぐあまり、仕上げが雑になることがある。 ・身近な自然や、建物や文房具などの人工物を基に思い付いてつくる体験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が率先して作品の良い部分を伝え、児童に鑑賞するポイントをつかませる。 ・作例や見本を書画カメラで分かりやすく示し、丁寧に仕上げた作品の良さに気付かせる。 ・身近な自然物や、建物や文房具などの人工物を観察したり、触ったりする活動を取り入れた題材を設定する。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動に対して、「上手にできるようになりたい」と意欲をもって体を動かしている児童が多い。 ・チームの作戦を考えたり友達の良い動きを見付けたりして表現している。 ・技能に自信がなく、消極的になってしまう児童がいる。 ・ゲームで勝敗にこだわってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師からだけでなく、児童同士でも肯定的な声掛けをし合えるよう、言葉掛けを例示する。 ・体育ノートを活用し、学習の気付きや思考を記録し、振り返ることができるようにする。次時に紹介し、課題等を共有する。 ・段階別の課題を提示したり、チーム内での役割をもたせたりして、安心して参加できる環境をつくる。 ・相手の立場に立って考えることや、礼儀の大切さを考えることを促す。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文の登場人物の出来事を、自分事として捉え、真剣に考えることができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技を取り入れたり、自分だったらどうするかを考えたりしながら、よりねらいに迫ることができるような手立てを意図的に取り入れていく。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや思いがあるのに、自信がもてず発言できない児童がいる。 ・自分自身の生活を振り返ることが難しい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでの話し合い活動を取り入れたり、ICTを活用したりして、児童同士で気軽に発言し合えるような授業づくりを行う。 ・自分自身の生活を振り返る時間を十分に取ったり、机間指導の際に個別に支援をしたりする。 	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習をすすめることを楽しんでいる。 ・タブレットの扱いに個人差が大きく、調べたい情報にアクセスできない児童がいる。 ・調べた内容から情報を精選してまとめることが難しい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味をもって主体的に調べ学習を進められるような学習問題の設定を引き続き行う。 ・総合的な学習以外でも積極的にタブレットを活用し、慣れさせる。 ・要点をしぼってまとめられるよう、国語での学習と結び付けながら指導する。 	
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく知る英単語や表現に関心をもち、毎時間の外国語活動を楽しみにしている児童が多い。 ・リスニングに苦手意識をもっている児童が見られる。 ・スピーキングに自信がない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きALTと連携しながら、児童が楽しく学習できるようなゲームやアクティビティを適宜取り入れる。 ・英語の聴き取りに自信がない児童には、日本語で内容を伝えながら支援する。聴き取りができた時には大いに褒めて、次につながるように声を掛ける。 ・つまづきが見られる発音や英単語は、ALTの口の形や舌の動きに注目させ、重点的に練習を行う。また、歌やゲームを意図的に取り入れ、楽しみながら習得できるようにする。 	